

令和3年度 文書館資料叢書 18

『福井藩士履歴 10 新番格以下 3 タ〜ム』の発刊・配布について

1 刊行の目的

文書館資料叢書は、福井県の歴史解明において重要で、かつ一般利用者の閲覧要望が多い資料を活字化し解説等を加えて刊行してきた。これまで士分と呼ばれた上級〜中級藩士の家臣の人事履歴（藩士履歴 1〜6）、幕末期に新たに召しだされた藩士の子弟の人事履歴（藩士履歴 7 子弟輩）を刊行した。それらに引き続く形で令和元年度以降、下級家臣団約 500 家（明治以降のいわゆる卒身分に相当する藩士の家系）の人事履歴を刊行しており、本巻はその 3 冊目である。

2 おもな掲載人物

坪田（岡倉） 覚右衛門（つばた（おかくら） かくうえもん）、生没年未詳

明治時代の美術指導者である岡倉天心（覚三）の父。1855（安政 2）年に諸下代となり 1860 年に小寄合格となる。同年から横浜で生糸を商う福井藩の商館石川屋を差配。福井藩探索方をつとめる。

高橋 直矢（たかはし なおや）、生年未詳〜1873 没

1867 年（慶応 3）小算として出仕。1871（明治 4）に福沢諭吉のもとで英学を修行する。1872 年に武庫司として明治新政府に出仕するも翌年病死。

内藤 久作（ないとう きゅうさく）、生没年未詳

もと足羽郡下馬村の百姓身分の人物で、1796 年（寛政 8）から荒子（あらしこ）に召し抱えられる。のち内藤姓を名乗り、新番格以下の下級藩士となった。

3 刊行計画

『福井藩士履歴 1〜6』（既刊）、『福井藩士履歴 7 子弟輩』（既刊）

『福井藩士履歴 8 新番格以下 1 イ〜リ』、『福井藩士履歴 9 新番格以下 2 ヲ〜ヨ』（既刊）

『福井藩士履歴 10 新番格以下 3 タ〜ム』（今年度刊行）

『福井藩士履歴 11〜13 新番格以下 4〜6』（来年度以降刊行の予定）

4 配布方法等

県内図書館、都道府県立図書館・公文書館等へ令和 4 年 3 月中に配付。

令和 4 年 3 月 29 日（火）以降、希望者には文書館閲覧室において配布。

5 判および発行部数

A4 判（本文 165 頁） 印刷部数 1000 部